

【 復活讃詞 第3調 】



てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの
天 在 者 樂 地 在 者
よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら
悦 主 其 臂 力 顯
わして、しをもってしをほろぼし、ふ復
死 以 死 滅 ぼ し 復
くかつのはじめとなり、われらをぢごく
活 首 我 等 地 獄
のはらよりすくい、せかいにおおいな
腹 救 世界 大
るあわれみをたまいたればなり。
憐 賜

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 】



こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光 榮 父 子 聖 神 歸 今
いつもよよに、アミン。
何 時 世 世
しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使 徒 等 同 座 る 物 者 忠
じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實 神 智 の 役 者 聖
なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう光
満器我 國光

しよおしや、あしとしゆきょうせいニコライ
照お者、亜使徒主教聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
爾羊群爲及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
全世界爲、生命賜聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給

司祭) (黙誦： ^{せい かみ せいじゃ うち いこ} 聖なる神、^{せいさん こえ もつ かしょう} 聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{さんえい ことごと てんぐん ふくはい ばんぶつ む ゆう} ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
^{ひと なんぢ ぞう しょう よ つく なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ} なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
^{ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す そのすくい ため つうかい} 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
^{た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ ととき おい なんぢ せい} を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
^{さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの} る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
^{しゆさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ} なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
^{もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ} 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
^{せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい} を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
^{しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ} 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋 ^{けだしわ かみ なんぢ せい} 我が神よ、爾は聖なり、^{われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ} 我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い な る
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐
 よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐
 め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅
 聖 神 聖 勇 毅
 せ い な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 こう え い は ち ち と こ と せ い しん
 光 榮 父 子 聖 神
 に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世
 せ い な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 殺 聖 常 生 者 我 等 を
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世々に、)

【 提綱 (プロキメン) 主日第3調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんちのしんにも。
 爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

わがかみにうたいうたえよ、わがお
 我 神 歌 歌 我 王
 うにうたいうたえよ。
 歌 歌

誦經) 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わがかみにうたいうたえよ、わがお
 我 神 歌 歌 我 王
 うにうたいうたえよ。
 歌 歌

誦經) 我が神に歌い歌えよ、



【 使徒經 (アポストロス) 285 端 ティモフェイ書 4 章 9～15 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが ^{たつ} ティモフェイに ^{ぜんしよ} 達する ^{よみ} 前書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹みて ^き 聽くべし、

誦經) ^こ 子ティモフェイよ、^こ 此れ ^{まこと} 信なる ^{まった} 全く ^う 受くべき ^{ことば} 言なり。蓋 ^{けだしわれら} 我等は ^{これ} 此が ^{ため} 爲に ^{ろう} 勞して ^{そしり} 謗
^う を受く、^{すなわち} 乃 ^{かみ} 活ける ^{のぞみ} 神に ^よ 望あるに ^{かれ} 因りてなり、^{ことごと} 彼は ^{ひと} 悉くの人、^{こと} 特に ^{しんじゃ} 信者の ^{きゆうしゆ} 救主な
^{なんち} り。爾 ^{こと} 此等の事 ^{いまし} を ^{かつおし} 戒め且 ^{ひとなんち} 教えよ。人 ^{としわか} 爾の年 ^{もつ} 少きを ^{かる} 以て ^{すなわちなんち} 輕んずべからず、乃 ^{なんち} 爾
^{ことば} 言に、^{おこない} 行に、^{あい} 愛に、^{しん} 神に、^{しんこう} 信仰に、^{けつじょう} 潔淨に ^{おい} 於て、^{しんじゃ} 信者の ^{もはん} 模範と ^な 爲れ。^{とくしよ} 讀書と、^{かん} 勸
^ゆ 諭と、^{きょうくん} 教訓とを、^{つと} 務めて、^わ 我が ^{きた} 來るを ^ま 俟て。爾 ^{なんち} に在る ^あ 恩賜、^{おんし} 預言に ^{よげん} 由りて、^よ 長老の ^{ちようろう} 按
^{しゆ} 手を ^{もつ} 以て、^{なんち} 爾に ^{さづ} 授けられし ^{もの} 者を ^{ゆるかせ} 忽にする ^{なか} 勿れ。此等の事 ^{これら} を ^{こと} 思念し、^{しねん} 専ら ^{もつば} 之を ^{これ} 務め
^{なんち} よ、爾の上 ^{じょうたつ} 達が ^{しゆう} 衆に ^{あらわ} 顯れん ^{ため} 爲なり。

 (比較用 口語訳) 子テモテよ、これは確實で、そのまま受け入れるに足る言葉である。わたしたちは、このために勞し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に輕んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、輕視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

司祭) ^{なんち} 爾に ^{へいあん} 平安、

誦經) ^{なんち} 爾の ^{しん} 神にも、ア ril l i y a、

【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{しゅ} 主よ、^{われなんぢ} 我 爾 ^{たの} を ^{ねが} 侍む、願わくは ^{われよよ} 我 世 ^{はぢ} 世に ^え 差を得ざらん、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。。

誦經) ^わ 我 ^{ため} が ^{けんご} 爲に ^{かくれが} 堅固なる ^{われ} 避 ^{つね} 所となりて、我に ^{かく} 常に ^え 隠るる ^{たま} を得しめ ^え 給え、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。。

司祭) (黙誦: ^{ひと} 人を ^{あい} 愛する ^{しゅさい} 主 宰 ^わ よ、^{わが} 我 ^{こころ} が ^{かみ} 心 ^し に ^{ちえ} 神 ^{いさぎよ} を知る ^{ひかり} 智慧 ^{かがや} の ^わ 淨 ^{しねん} き ^わ 光 ^わ を ^わ 輝 ^わ かし、^わ 我 ^{しねん} が ^わ 思 ^わ 念

^め の ^{ひら} 目を ^{なんぢ} 啓 ^{なんぢ} きて、^{なんぢ} 爾 ^{ふくいん} が ^{おしえ} 福 ^{さと} 音 ^{たま} の ^わ 教 ^{なんぢ} を ^{なんぢ} 悟 ^{ふく} らしめ ^{いましめ} 給え、^わ 我 ^{なんぢ} が ^{なんぢ} 衷 ^{ふく} に ^{なんぢ} 爾 ^い の ^い 福 ^い たる ^い 誠 ^い を

^{おそ} 畏 ^{おそれ} る ^い 畏 ^{われら} を ^{ことごと} も ^{にくたい} 入 ^{よく} けて、^ふ 我 ^{およ} 等 ^{なんぢ} が ^{よるこ} 悉 ^{ところ} くの ^{ところ} 肉 ^{ところ} 體 ^{ところ} の ^{ところ} 慾 ^{ところ} を ^{ところ} 踏 ^{ところ} み、^{ところ} 凡 ^{ところ} そ ^{ところ} 爾 ^{ところ} の ^{ところ} 喜 ^{ところ} ぶ ^{ところ} 所

^{おも} を ^か 思 ^{おこな} い ^{ぞくしん} 且 ^{せいかつ} つ ^す 行 ^{いた} いて、^{たま} 屬 ^{けだし} 神 ^{かみ} の ^{かみ} 生 ^{かみ} 活 ^{かみ} を ^{かみ} 過 ^{かみ} ぐる ^{かみ} を ^{かみ} 致 ^{かみ} させ ^{かみ} 給 ^{かみ} え、^{かみ} 蓋 ^{かみ} ハ ^{かみ} リ ^{かみ} ス ^{かみ} ト ^{かみ} ス ^{かみ} 神 ^{かみ} よ、

^{なんぢ} 爾 ^わ は ^{たましい} 我 ^{からだ} が ^{こうしょう} 靈 ^{われらなんぢ} と ^{なんぢ} 體 ^{なんぢ} と ^{むげん} の ^{ちち} 光 ^{しせいしぜん} 照 ^{しせいしぜん} なり、^{しせいしぜん} 我 ^{しせいしぜん} 等 ^{しせいしぜん} 爾 ^{しせいしぜん} と ^{しせいしぜん} 爾 ^{しせいしぜん} の ^{しせいしぜん} 無 ^{しせいしぜん} 原 ^{しせいしぜん} の ^{しせいしぜん} 父 ^{しせいしぜん} と ^{しせいしぜん} 至 ^{しせいしぜん} 聖 ^{しせいしぜん} 至 ^{しせいしぜん} 善 ^{しせいしぜん} に ^{しせいしぜん} し

^{いのち} て ^{ほどこ} 生 ^{なんぢ} 命 ^{しん} を ^{こうえい} 施 ^{けん} す ^{いま} 爾 ^{いつ} の ^{よよ} 神 ^{よよ} と ^{よよ} に ^{よよ} 光 ^{よよ} 榮 ^{よよ} を ^{よよ} 獻 ^{よよ} ず、^{よよ} 今 ^{よよ} も ^{よよ} 何 ^{よよ} 時 ^{よよ} も ^{よよ} 世 ^{よよ} 世 ^{よよ} に、^{よよ} ア ^{よよ} ミ ^{よよ} ン。)

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書94端 19章1~10節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、^{つつし} 肅 ^た み ^{せいふくいんけい} て ^き 立 ^{しゅうじん} て ^{へいあん} 聖 ^{へいあん} 福 ^{へいあん} 音 ^{へいあん} 經 ^{へいあん} を ^{へいあん} 聽 ^{へいあん} く ^{へいあん} べ ^{へいあん} し、^{へいあん} 衆 ^{へいあん} 人 ^{へいあん} に ^{へいあん} 平 ^{へいあん} 安 ^{へいあん} 、



なんぢの し んにも 。
爾 神

司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、 こう えい は なんぢに き し、 こう えい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



は なんぢに き す 。
爾 歸

司祭) ^{つつし き か と き い す ゆ み な} 謹みて聽くべし、彼の時 イエス イェリホンに入りて過ぎ行けり。視よ、ザクヘイと名づく

^{もの ぜいり ちょう と もの}る者あり、^{いか ひと み ほつ} 税吏の長にして富める者なり。イエスの如何なる人たるを見んと欲したれど

^{ひと おお よ み え み たけひく すなわちはし すす かれ み}も、人の衆きに因りて見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃趨り前みて、彼を見ん

^{ため いちじく のぼ かれこ かたわら す}爲に無花果樹に升れり、^{こ ところ きた と き} 彼此の旁を過ぎんとすればなり。イエス此の處に來りし時、

^{あお これ み い すみやか くだ けだしわれこんにちなんぢ いえ やど}仰ぎて、之を見て曰えり、ザクヘイよ、速に下れ、蓋我今日爾の家に寓るべし。

^{かれいそ くだ よろこ う ひとみなこれ み うら い かれゆ ざいにん}彼急ぎ下り、喜びてイエスを接けたり。人皆之を見て、怨みて曰えり、彼往きて罪人

^{きやく な た しゅ い しゅ われしよゆう なかば もつ まづ もの}の客と爲れり。ザクヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我所有の半を以て、貧しき者に

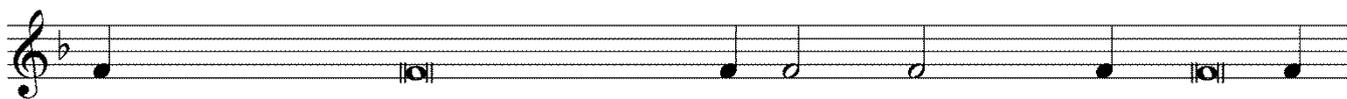
^{ほどこ もし ひと と しばい これ つくの かれ い}施さん、若し誣いて人より收りしことあらば、四倍にして之を償わん。イエス彼に謂え

^{こんにちすくい こ いえ のぞ こ ひと こ けだしひと こ ほろ}り、今日救は此の家に臨めり、此の人もアヴラアムの子なればなり。蓋人の子は亡び

^{もの たづ すく ため きた}し者を尋ねて救わん爲に來れり。

(比較用 口語訳) イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見るができなかった。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となった」と言った。ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てををしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言わ

れた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸